

2022年度の省エネルギー対策の総括について

2021年度までと同様に義塾において消費したエネルギー全体の使用量についてエネルギー消費原単位(※1)を利用して対象年度と比較して評価を行った。例年であれば前年度と比較して評価を行うが、2020年度・2021年度は新型コロナウイルス感染症対策による施設利用制限などによりエネルギー使用量が大きく変動したため、新型コロナウイルス感染症対策の影響がない2019年度と比較して「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を1%以上低減する」ことを目標に省エネルギー対策を実施した。

※1 エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー(電気・ガス)の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

■年間エネルギー消費原単位比較

2021年度と同様に三田、湘南藤沢の2キャンパスについては目標値を達成したが、日吉、矢上、芝共立および信濃町の4キャンパスについては、目標年度の数値を上回る結果となった。2022年度は大学全体として年間を通して対面で授業が実施されたため、2021年度と同様の傾向が継続されたものと考えられる。ただ、三田、日吉、信濃町の3キャンパスにおいては年度の後半から対面授業を再開した2021年度よりもエネルギー消費原単位が低減し、エネルギー消費原単位が増加した矢上、湘南藤沢、芝共立の3キャンパスにおいても、その増加幅が小幅であることから、新型コロナウイルス感染症対策下における空調や換気設備の効率的な稼働が定着してきたことと、照明器具LED化の積極的な推進など省エネルギー対策の効果が現れていると考えられる。

年間エネルギー消費原単位比較(単位: MJ/m²・年)

	目標年度の エネルギー消費 原単位	2022年度の エネルギー消費 原単位	目標値との比較		2021年度の エネルギー消費 原単位(参考)
			差異	差異比率	
三田キャンパス	850	798	-52	94%	807
日吉キャンパス	943	955	+12	101%	958
矢上キャンパス	2,312	2,380	+68	103%	2,335
湘南藤沢キャンパス	1,059	844	-215	80%	809
芝共立キャンパス	1,869	1,959	+90	105%	1,907
信濃町キャンパス	2,654	2,831	+177	107%	2,903
主要6キャンパス	1,665	1,644	-21	99%	1,687

2023年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変更されたことから、キャンパスでの活動が更に活発になり、エネルギー消費量の増加が見込まれるが、電気、ガスなどエネルギー価格高騰の観点からも、更に踏み込んだ省エネルギー対策を実施し、エネルギーの効率的な使用に努める。

以上